

< Vol.18 の記事 >

総会資料の補足説明・・・？

2002年度通常総会が7月14日に予定されています。会員の皆さんには資料をお配りしているところですが、資料の中の何点かについて、もう少し詳しい説明を本号では記載したいと思います。

事前にお読みいただくことで、総会に意見を持ってきていただきやすくなるかと思えます。

【1. 会費について】

市民クラブとしては、より低い会費でより多くの方が参加しやすくすることが望ましいと考えられます。2年前まで月会費は、JY:6,000円(週3~4回練習) Y:8,000円(週2~3回練習) 一般:10,000円(週2回練習)でした。ここ1~2年で、JYとYの練習日をそれぞれ増やしつつ、種々の経費節減などを施し、現在はそれぞれ、6,000円、6,000円、8,500円(U-23:5,000円)としています。

一般会員の会費がまだ高いという意見がありますが、実際に、新入会を検討されている方の中には、会費を問題にして入会されない方もいらっしゃいました。

チーム登録料や用具費など人数にあまり関わらずかかる費用もあり、さらに節減していくことはなかなか難しいのですが、活動を充実することで成人会員の方がもう少し増えていけば、8,000円、7,000円と下げていけるものと考えています。

最終的には、全コース月6,000円程度にすることを目指しています。

【2. 運営について~費用面~】

クラブの運営は、年間予算の9割が会員からの会費で成り立っています。このほかに、賛助会員の方からの寄付などが1割程度を占めています。行政からの補助はありません。01年度は笹川スポーツ財団から50万円の助成金を受けましたが、今年度はこれは承認されませんでした。

賛助会員の方々は、青少年のスポーツ環境の提供に賛同していただき、賛助会費をいただいています。

地域のスポーツ環境の充実にクラブとして貢献していくことで、周囲の理解を深めていけば、賛助会員の方をもっと増やしていけると思えます。

【3. 運営について~活動面~】

クラブの運営は、数名の会員有志の方のご協力をいただきながら会員理事が中心となって無償で行っています。

通常の練習時の車・用具当番、試合時の会場設営、公式戦の審判などについては、理事だけでは手が足りないため、その他の会員の方にもお手伝いいただきながら進めています。皆さん自分で会費を払いながらクラブのために時間を割いていること、全員が等しく労力を提供できるわけではないことなどから、お手伝いいただいた方には、僅かですが謝金をお支払いしています。

また、日常の練習の面倒をみてくださっている指導者の方々にも謝金をお支払いしています。

グラウンドの予約、会計管理、日常の各種連絡、用具の管理など平日に会員理事が行えないようなことについては、事務局のアルバイトが担当しています。

【4. 新入会員の状況】

一般会員は随時受け付ける中で、例年とおり数名の新入会員があり、順調にその数を増やしています。いまや、生涯の背番号は48番まで使われています。

昨年好調だったジュニアユースは、今年度春の新入会員が4名と、やや寂しい状況となってしまいました。3月の体験練習時にいい感じで来てくれていた大きな2グループ(それぞれ6~7名)が、土壇場になって中学校でやることを選択されたことなど、ややアンラッキーが重なってしまった結果です。

今後、夏休みにむけて、後述するフリースクールの宣伝とあわせて大々的にPRし、あらたな会員を募ることを予定しています。

市内の小学校などへの知名度がまだまだ低いと言われているので、折り込チラシなどで大々的にPRしたいと考えています。

会員の皆さんにも少年団に知り合いがいるとか、ポスターを貼らせてくれるところを知っているという方がいましたら、事務局まで連絡してください。チラシ、ポスターをお渡しします。

一方、ユースは出足好調で既に10名の1年生が入会し、まだ数名の入会が見込まれます。1学年10数

名そろうことで、充実した活動が行えそうです。

ただ、夏以後、中核を担っていくべき2年生が少ないこと（本当は10名ぐらいいるのですが、休会中が数名います）が気がかりです。

高校生になると、インターネットのHPで見たという問合せも数多くあり（一般も多い）、HPが重要な宣伝手段になっていることがわかります。携帯電話対応のHPなども作成するとより良いのかもしれませんが（誰か、得意な人いらっしゃいませんか？）

【5．サッカースクールについて】

地域の青少年へのサッカー普及、スポーツ環境の提供を目指して開始することを予定しています。

夏休みにまずは試験的に行い、参加者から感想などをききながら9月からの方法を決めていきたいと考えていますが、とりあえず、水曜日の5時～6時半に駒場サブで開催する予定です。

当面の対象は小学校4～6年生を考えています。

チームをつくる予定はありません。少年団の子も、入っていない子どもどちらも受け入れて、基礎技術を少し教えて、後はミニゲームなど遊び的な要素を強くして、とにかく楽しくスポーツ（今はサッカーですが）に親しんでもらう機会を提供しようと考えています。

したがって、少年団の活動のある週末は避け、平日の夕方に行くことを予定しています。

同時に、クラブのPRにもなることも期待しています。ここでクラブに慣れた小学生が、JYに入ってきてくれるようになれば、さらに連続性が生まれることとなります。

一緒に球を蹴って50年・・・なんて友達関係が将来実現するとすばらしいですね。

【6．NPOについて】

‘NPO’は、‘Nonprofit Organization’の略で、直訳すると「非営利組織」となりますが、意味を正確に伝えるためには、「民間非営利組織」と訳すことができます。

- ・「民間」とは「政府の支配に属さないこと」
- ・「非営利」とは、利益を上げてはいけないという意味ではなく、「利益があがっても構成員に分配しないで、団体の活動目的を達成するための費用に充てること」
- ・「組織」とは、「社会に対して責任ある体制で継続的に存在するもの」

と説明できます。活動分野や地域にかかわらず、組織の性格を表わす言葉です。

利益を得ることを目的とする組織である企業に対し、NPOは社会的な使命を達成することを目的にした組織であるといえます。

なぜ、浦スポがNPOを目指すかということ、NPOとすることで法人格を有することになりますので、各種の契約事項などがクラブ名で行えることになります。今は、それができませんので、理事長や事務局の個人名で行っていますので、いろいろと制約が生じています。

また、NPO法人の登録には国の許可が必要ですが、これを受けることで、会計の管理や運営が相応にしっかりとやられているという認証を受けることとなり、社会的な信用度が高まります。

地域SCとして、さらにクラブの枠を拡大していくためには、このような社会的な認知と信用を得ることが不可欠であると考えています。

また、NPO法人となることで、企業からの寄付なども受けやすくなります。

【7．総合型地域SCについて】

なかなか具体的な姿がわかりづらいかもしれませんが、ヨーロッパのクラブ、スペインのバルセロナやドイツのバイエルンミュンヘン、イングランドのマンチェスターユナイテッド・・・みな、地域にスポーツクラブです。

特に、バルセロナは、特定のスポンサーを持たず、ソシオと呼ばれる会員によって運営されているクラブとして有名です。クラブには、有名なサッカーのチーム以外にも、バレーやバスケットのチームがあります。

日本国内でも、じょじょにその数は増えてきています。Jリーグでも、アントラースはテニスの教室なども開催しています。J2の新潟アルビレックスはバスケットチームも活動しています。

Jのチームでなく、市民クラブとして育っているところも出てきています。埼玉県内では、志木市のクラブしっくーず、所沢の所沢西地区スポーツクラブなどがあります。

【8．お詫びと訂正】

資料9ページの役員名簿に、吉沢裕様（JY会員の保護者）のお名前が抜けておりました。

大変失礼いたしました。

浦和SCニュースは、クラブ内の情報交換を図ることを目指して発行しています。

外部へのPRにもどんどん利用してください。必要があれば部数をお送りします。事務局までご連絡ください。

発行は不定期になることを、予めお断りしておきます（すみません ^^）

ニュース、意見等投稿をお待ちしております